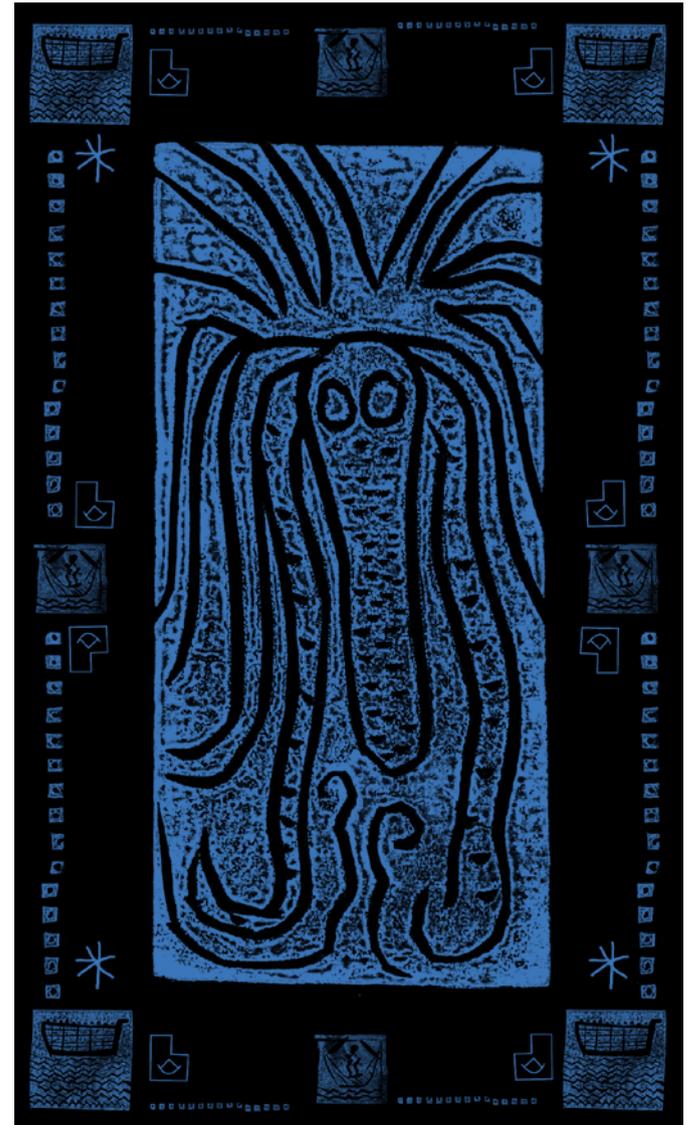


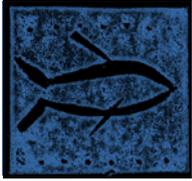
その皮膚を脱ぎ捨て、  
大洋がそれを持ち去るように。  
彼の良き肉体が潤うように。  
彼の頭巾が新調されるように。  
彼が衣装を、彼の活力の衣を、  
身に纏うように。

彼が自分の町に行けるまで、  
彼の道に達するまで、  
その衣装は薄汚れず、真新しくあるように」。

ウルシャナビは、ギルガメシュを案内し、  
水場に連れて行った。  
ギルガメシュは、  
水でその汚れた髪を雪のように清く洗った。  
その皮膚を脱ぎ棄てると、海がそれを持ち去った。  
彼の良き肉体は潤った。  
彼は自分の頭巾を新調した。  
彼は衣装を、彼の活力の衣を、身に纏った。  
彼は自分の町に行けるまで、  
彼の道に達するまで、  
その衣装は薄汚れず、真新しくあり得たのだった。  
ギルガメシュとウルシャナビは、舟に乗った。  
彼らはマギル舟を出し、海に出ようとした。

そのとき、ウトナピシュティムの妻は、彼に語った。  
「ギルガメシュは、ここまでやって来て、

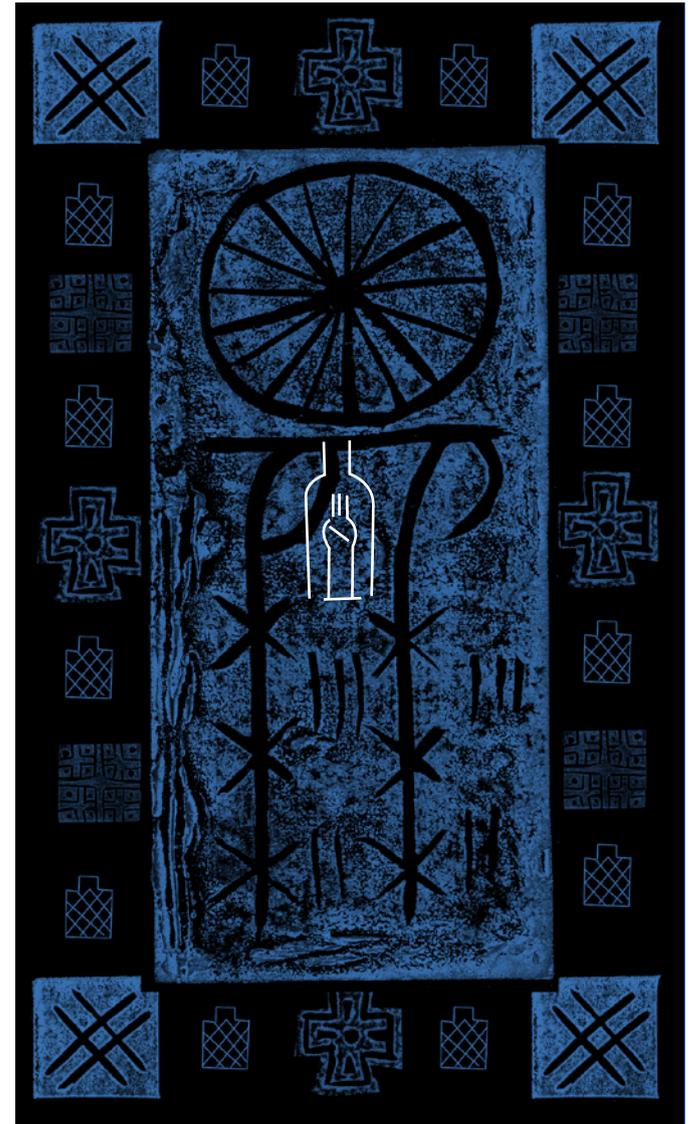


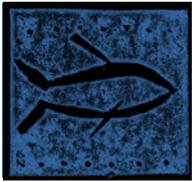


疲れ切り、消耗している。  
あなたが何を与えたので、彼は、  
その国に帰ろうとしたのですか。  
そのとき、ギルガメシュは  
権がいを持ち上げ、  
舟を岸边に近づけようとしていた。

ウトナピシュティムは、ギルガメシュに語った。  
「ギルガメシュよ、お前はここまでやって来て、  
疲れ切り、消耗している。  
わたしがお前に何を与えたので、  
お前は国に帰ろうとするのか。  
ギルガメシュよ、わたしは隠された事柄を明かそう。  
生命いのちの秘密を、お前に語ろう。  
その根が、刺藪とげやぶのような草がある。  
その刺は、野薔薇のばらのようにお前の手を刺す。  
もし、この草を手に入れることができるなら、  
お前は不死の生命を見出そう」。

ギルガメシュは、これを聞いて、溝を開け、  
重い石を足に縛りつけた。  
それらの石が、彼を深淵に引き込むと、  
そこにかの草があった。  
彼がその草を取ると、刺とげが彼の手を刺した。  
彼は、それらの重い石を足からはずした。  
深淵の海は、彼を岸边に投げ出した。



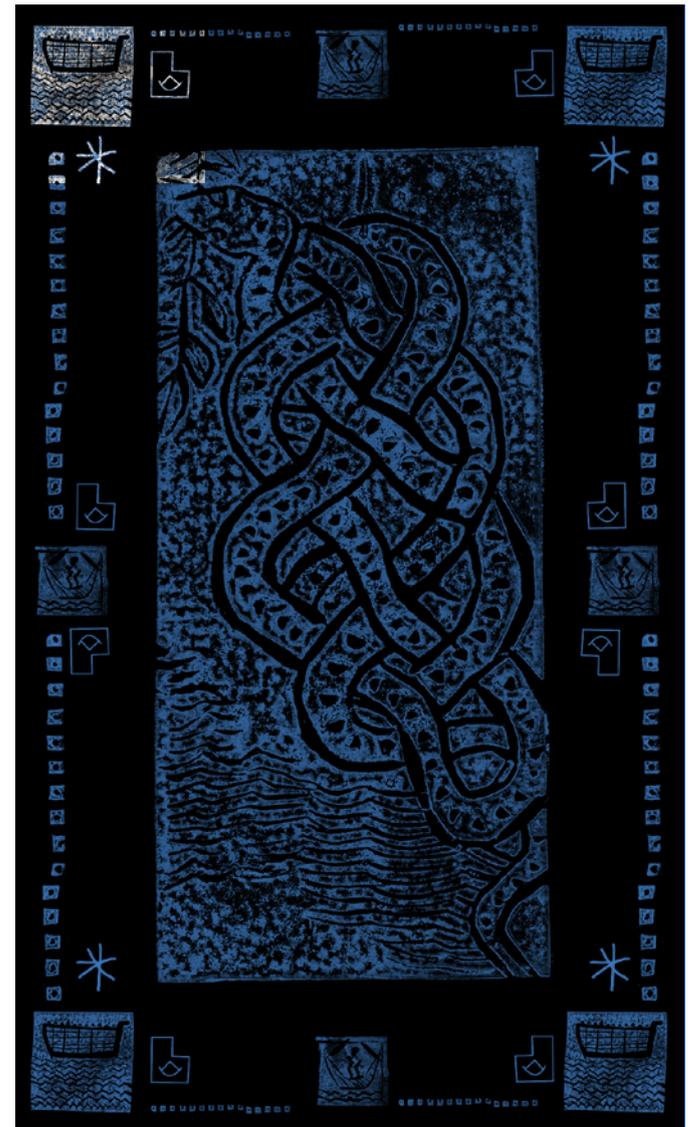


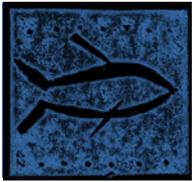
ギルガメシュは、  
舟師ウルシャナビに語った。  
「ウルシャナビよ、  
この草は危機を超えるための草だ。  
それによって、人は<sup>いのち</sup>生命をうる。  
わたしはこれを、

囲いの町、ウルクに持ち帰り、  
老人にそれを食べさせ、試してみよう。  
その草の名は、『老いたる人が若返る』だ。  
わたしもそれを食べ、若き時代に戻ろう」。

20 ベール行って、彼らはパンを割いた。  
30 ベール行って、夕の休息をとった。  
ギルガメシュは、冷たい水を湛える泉を見て、  
くだって行き、水で身を<sup>きよ</sup>めていた。  
1匹の蛇が、その草の香りを<sup>か</sup>いで、  
音もなく忍び寄り、草を取り去った。  
戻って行くとき、蛇は皮を脱ぎ棄てた。  
その日、ギルガメシュは腰を落として、泣いた。  
頬をつたって涙が流れ落ちた。

ギルガメシュは言った。  
「舟師ウルシャナビよ、わが言葉を<sup>しりぞ</sup>退けないで欲しい。  
何のために、舟師ウルシャナビよ、  
わが<sup>かひな</sup>腕は疲れきったのか。  
何のために、わが<sup>う</sup>心臓の血は失せ去るのか。





わたしは自分のために、  
よきことを企てたのではなかったか。  
〈大地のライオン〉にも、  
わたしはよきことを行ったのに。  
ところが、いまや20ベールも、  
流れはかの草を運んでしまう。

わたしが溝を開けたとき、  
わたしは道具を落としてしまったのだ。  
わたしは何を見て、  
それをわが<sup>かたわ</sup>傍らに置いてしまったのか。  
わたしは戻るべきであったのか。  
そして、舟を岸辺に置いておくべきだったのか。

20ベール行って、彼らはパンを割いた。  
30ベール行って、夕<sup>ゆづ</sup>の休息をとった。  
彼らは困いの町、ウルクの町中に着いた。

ギルガメシュは、舟師ウルシャナビに語った。  
「ウルシャナビよ、  
ウルクの城壁<sup>のぼ</sup>に上り、行き来してみよ。  
礎石をしらべ、煉瓦<sup>れんが</sup>を吟味<sup>ぎんみ</sup>してみよ。  
その煉瓦<sup>しょうせいれんが</sup>が焼成煉瓦ではないかどうか。  
その基礎は七賢者が据えたのではなかったかどうか。  
ウルクの町は1シャル、  
果樹園は1シャル、  
粘土をとる低地が1シャル、

